

江北の四季

令和2年
8月21日
第21号



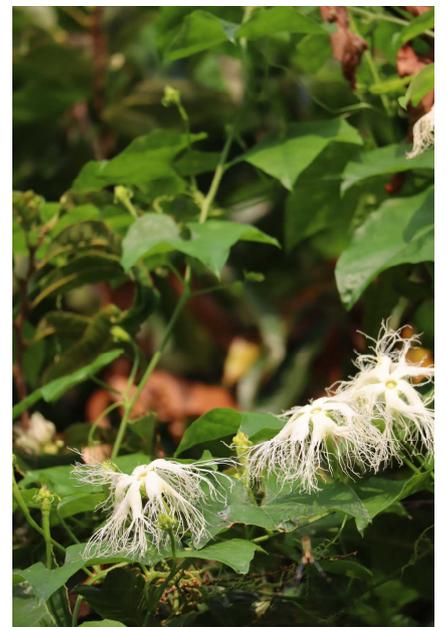
白花の芙蓉(フヨウ)が咲き出しましたが、さすがにこの暑さには参っているようで、日中は半開き状態です。木槿(ムクゲ)と同じく一日花で朝咲いて夕方にはしぼみますが、毎日次々と咲いてくれます。「芙蓉」は蓮(ハス)の美称でもあり、区別する際には芙蓉を木芙蓉(モクフヨウ)、蓮を水芙蓉(スイフヨウ)というようです。

近くで有名なのは長浜八幡宮の東隣にある舎那院(しゃないん)の芙蓉です。ピンク、白色、そして朝は白色だったのが夕方には酒を飲んだように赤くなる醉芙蓉(スイフヨウ)。約三百株ほどあるとのことです。

○処暑、第四十候、初候、綿柎開(わたのはなしべひらく)。

二十四節気の第十四節気、処暑。「暑さが止まる」という意味ですね。暑さも峠を越して、昼間はまだまだ暑くても、朝夕には涼風が吹き秋の気配を感じる季節、のはずですが……………。

綿のはなしべ開くですから、綿の実を包む花のがくが開き始めるころです。がくが開くと綿花が現れますが、これは種子を包む綿毛のことです。本場の綿の花はもっと早い時期に咲き、オクラの花によく似た花です。以前、ガーデナーがドライフラワー用に綿を育てていましたが、今はもう庭にはありません。この綿毛(綿花)を紡(つむ)いで木綿がつくられます。日本での綿の栽培は戦国時代から普及したそうです。火縄や軍服用に広まったようです。木綿が庶民の身近な衣料素材となったのは江戸時代からで、それ以前は麻(あさ)と呼ばれる植物繊維や、藤、葛(くず)、楮(こうぞ)などからとった繊維から織った布を身につけていたとのことです。「麒麟がくる」ではカラフルな着物を着た庶民がほとんどですが……………。



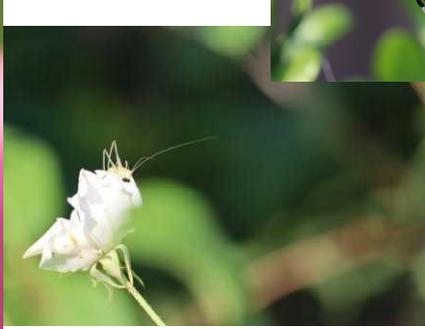
隣の畑の高さ5〜6mの栗の木に烏瓜(カラスウリ)の花を見つけました。写真は早起きして朝五時過ぎに撮った写真ですが、もうすでにしぼみかけていました。花を真上から撮れるといいのですが、残念ながら下から見上げるを得ないところで咲いています。きれいな花を見た人はウェブで見てください。リースを広げたような幻想的な花ですよ。日暮れから明け方にかけて咲く花なのでなかなか見ることができません。烏瓜は十月過ぎには卵型の赤い実をつけます。苦みがあり食用に向かないことからカラスぐらいしか食べない実と言われますが、蔓性の多年草で木に巻き付いて成長するところから「枯らす瓜」が転じて「カラスウリ」になったという説もあります。

実は夕方に畑の水やりをしていたときに見つけて翌朝五時半に起きて撮ったのですが、完全にしおれていました。この写真はこの翌日の写真です。

珍しく茶色のカマキリを見ました。我が家の小さな庭にも食う者と食われる者がいます。



蜘蛛の巣にアブラセミがかかっていた。これも初秋の景色かなあ。



○『万葉集』より山上憶良の歌二首

秋の野に咲きたる花を指折り(およびをり) かき数ふれば七種(ななく)の花 短歌

秋の野に咲いている草花を指折り数えると七種類あります。

萩の花 尾花(オバナ) 葛花 撫子(ナデシコ)の花 女郎花(オミナエシ) また藤袴

朝貌(アサガオ)の花 旋頭歌(せどうか)

それは、萩の花、ススキ、葛花、ナデシコの花、オミナエシ、フジバカマ、アサガオの花です。

アサガオは園芸植物でそれ以外は野に咲く花であることと、当時は「桔梗」をアサガオと読んだことから、憶良の詠(よ)んだ朝貌は桔梗であろうといわれています。(なお、ムクゲ、ヒルガオという説もあるようです。)



女郎花(オミナエシ)

欄干のたもとに咲いて

いた葛の花。マメ科の蔓性多年草で、根のデンブンは葛粉として葛餅に、乾燥させた根は葛根湯となります。葛は昼寝をする植物と言われ、光が強すぎると弱ってしまうので、

夏の日の盛りには葉を上へ立てて閉じてしまします。昼寝をしているときには葉の裏側が見えるので、別名は「うらみそう(裏見草 恨み草)」。一方、夜になると、葉から水分が逃げ出すのを防ぐために、逆に葉を垂らして閉じます。

ヒルガオは古来から日本に自生し、万葉集では容花(かおばな)と呼ばれましたが、アサガオが唐より来て後はヒルガオとなりました。



春の七草は野菜の少ない時期に七草粥にして無病息災を祈るものですが、山上憶良は秋の七草をどのようにして選んだのでしょうか。万葉の時代から野山にあって秋の到来をいち早く教えてくれる植物には違いありませんが、調べてみると七種とも当時は薬用植物です。秋の初めは暑い夏の疲れが出ていろんな病気になるからです、秋の七草は初秋に見つけることができる薬草でもあったような気がします。今日近場で見つけられるのはススキと葛花くらいですが、「お好きな服は？」と秋の七草をあげて秋の到来を愉(たの)しむのもいいではありませんか。

お オミナエシ
 す ススキ
 き キキヨウ
 な ナデシコ
 ふ フジバカマ
 く クズ
 は ハギ



日本の伝統色には草花の名前がついているものが多いです。秋の七草からとられたものもありますね。

萩色は紫みのある明るい紅色、桔梗色は青みのある紫色、女郎花は緑みのある明るい黄色だそうです。草花を思い浮かべて、これらの色を想像するだけでも秋を感じて楽しいではありませんか。



シロバナイヌタデではないような。シロバナサクラタデかな？ 自宅近くの田んぼの横の用水路で見つけました。犬蓼より清楚で品があるように思います。

エノコログサ
 穂が短く、ピンと立っている。



アキノエノコログサ
 穂が長く垂れている。

エノコログサはふさふさした穂が犬のしっぽに似ていることから「犬ころ草」と言われたのが変化したものらしい。漢字で書いても狗尾草、犬のしっぽですね。別名は穂を振って猫をじゃらすのでネコジヤラシ。

庭の園芸植物の花は少なくなりましたが、道端には次々と野の花を見つけることが出来ます。

下は蔓性の多年草のセニンソウ(仙人掌)。左はヨウシュヤマゴボウ(洋種山牛蒡)。新風体に



使いたいと思います。何と合わせましょうか。エノコログサは？



